



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

学生向けイベント 「キャリア探セッション」の取り組み

はじめに

キャリア探セッションは、毎年、討論会中に開催される学生向けイベントで、今年で7回目となりました。学生の皆さんが、社会に出て活躍されている研究者とざっくばらんに議論して、将来のキャリア設計を考える機会を提供しています。日々の研究に対するモチベーションの維持や心構えなどはもちろんのこと、大学と企業の違いやサクセスストーリーの裏にある苦労話などについて、専門分野が近い先輩から話を聞き、語り合うことで、学生の皆さんが5年、10年先の「ミライの自分に会おう」ことができれば大成功という気持ちで企画しております。

キャリア探の概要

今年は討論会初日の17:30~20:30に開催しました。座学形式のレクチャーセッションと、生協食堂に場所を移してのグループセッションの2部構成で行いました。例年、40~50名程度の参加があり、これは討論会の学生参加者の2~3割に上ります。前半のレクチャーセッションでは、例年企業とアカデミアから1名ずつお話しいただいています。今年は、海洋研究開発機構の出口茂先生と花王株式会社に加賀谷真理子様にご講演いただきました。分野の近い研究者から、酸いも甘いも含めて、赤裸々なお話を聞く機会



実施風景 レクチャーセッション（左）とグループセッション（右）

は、あまりないと思います。終了後アンケートを見ると、企業における基盤研究のモチベーションや、人の繋がり的重要性など、研究の進め方以外にも多くの発見があったようです。

後半のグループセッションでは、企業・アカデミアの先生方にファシリテータとしてご協力いただき、学生4名とファシリテータ2名を1組として、意見交換を行いました。「研究→商品開発に直接的に結びつくことに面白さ」、「今、自分のやっている研究が想像もなかったところで繋がることもある」、「思っているよりも専門・テーマがすべてではないこと」、「自分の不安や先生に話せないこともいろいろ聞けた」など、得るものが多くあったようです。また、「会社において良かった派と、やめて良かった派の火花の散らし合いが凄まじい」、「求めていることではなくても、置かれた場所で一生懸命頑張れば、なんでもチャンス」など、キャリア探ならではの生々しい感想もあ

り、正解のないキャリアを探索するイベントであることが窺えます。グループで一緒になった学生同士で刺激しあって、自然と交流も生まれていました。

おわりに

今年の参加者は、修士1年が6割強と大半を占めていましたが、博士後期課程学生の参加も約2割ありました。また参加のきっかけとしては、指導教員の勧めが最も多く、ほかにも討論会HPや会告メールで認知されたようです。

講師ならびにファシリテータの皆様には、すべてボランティアでご協力いただいております。関係者一同、本企画が、学生の皆さんが将来キャリアをより具体的に想像（創造）するきっかけになればと願っています。

〔日下靖之（産業技術総合研究所）、
川上亘作（物質・材料研究機構）〕

© 2018 The Chemical Society of Japan